



くる 古いモノを活かし 楽しむことを教えてくれるお店

新たな魅力を宿らせ、次の出番を待つ古いモノたち。
楽しく愉快なお店は、CoolかつCuteな面白さにあふれていた。

店長の林誠さん
古いモノ好きで、元はお客様としてここに通っていたそう

昭和レトロと平成レトロと、数年前から若者を中心に巻き起こっているレトロブーム。「ノスタルジーを感じさせる雑貨や日用品を収集している」、「アンティークなモノ、アントリーや家具が大好き」といった古いモノ好きも多い。経年による独特の雰囲気を放つ古いモノたち。自分で好みの一品を探しにやってくる常連客に「いいモノが値打ちに揃う、みんなに知られたくないお店」と評されているのが、蟹江町にある総合リユースショップ「リサイクルくる」だ。

心弾む「ジャンクガーデン」

国道1号線を西に向かい、芝切の交差点を過ぎると左手に、山吹色の店舗が見えてくる。大きく店名が書かれた壁面にツタが程よく絡まり、緑と山吹色のコントラストが際目を引く。店舗前には園芸店のように鉢植えが並び、ガーデンコーナーも設けられている。

店内には軽快なジャズミュージックが流れ、家具、家電、生活雑貨、アウトドア用品、工具、香水、お酒、骨董、レトロ雑貨等々、幅広いジャンルのリユース品を

点を過ぎると左側に、芝切の交差点を歩いてくる常連客に「いいモノが値打ちに揃う、みんなに知られたくないお店」と評されているのが、蟹江町にある総合リユースショップ「リサイクルくる」だ。

当店はちょっとおかしな総合リユースショップです。国内外のいろんな古いモノたちを取り揃えていますが、特に力を入れているのがガーデンやアンティークです」と教えてくれたのは店長の林誠さん。自慢のガーデンコーナーは、植物と錫びた雑貨やアンティーク小物を組み合わせて飾る「ジャンクガーテン」。一般的に「がらくた」という意味の「ジャンク」なテイストを加えたガーデニングスタイルは、女性だけでなく男性にも人気がある。

多肉植物などのグリーンたちが古びた缶やボットなどに植えられ、モザイクタイルの流し台、網や鎖といった錫びたア

イアン材、味のある古材などとレイアウトされている。これと植物が「一緒に組み合わせもあり、生き生きとした植物と古いモノたちが織り成す、ユニークなガーデンは見て回るだけでも楽しくなってくる。



リサイクルくる

新たな魅力を宿らせ、次の出番を待つ古いモノたち。
楽しむことを教えてくれるお店は、CoolかつCuteな面白さにあふれていた。



「ひとひねり」が溢れる工房

「ひとひねり」と並びリサイクルくるが注力しているのが、お店に入ってきた右側エリアに設けられている「kuru工房（以下、クル工房）」だ。「世界にこにしかないオリジナルなアンティーク系の小物、雑貨、家具のコーナーです。ホツとするおかしなモノたちが並び、独特のアンティーク空間を創り出しています。お気に入りの一品を見つけに来てください」と林さん。

工房内に並ぶ、ホツとするおかしなモノたちは、何かに使われていたものをリペアしたり、リメイクしたりしたもの。買取った不用品や廃材を、使っていた時は違う使い方で楽しめるよう、工房スタッフがひとひねり。加工し、ディスプレイしている。

ガラス扉を間仕切りにしたり、ベッドのスプリング部分を取り出して活用したり、椅子やミシン台に木箱や何か合うものを組み合わせたり。趣向を凝らしたレアウトや、ディスプレイは部屋づくりや店づくりの参考になりそうだ。

「ひとひねり」が溢れる工房

「ひとひねり」と並びリサイクルくるが注力しているのが、お店に入ってきた右側エリアに設けられている「kuru工房（以下、クル工房）」だ。「世界にこにしかないオリジナルなアンティーク系の小物、雑貨、家具のコーナーです。ホツとするおかしなモノたちが並び、独特のアンティーク空間を創り出しています。お気に入りの一品を見つけに来てください」と林さん。

不要品をリユースの道へ

1階はクル工房の他に、骨董、レトロ雑貨、工具、寝具、文具、食器類、調理道具、家電、生活雑貨、香水、お酒などのコーナーがある。そして2階は西洋アンティーク寄りの家具をはじめカントリー家具、和風棚、チエアーにソファ、照明が並ぶ家具コーナーに、靴、洋服、着物、新しく設けたスポーツ・アウトドア用品のコーナーで構成されている。

お店を始めるからと、クル工房や家具コーナーを見にくる来店者も多い。遠くは兵庫や大阪、東京からの来店もあり、ステンドグラスを使ったものなどアンティーク調の照明は人気が高く循環が多いといつ。

集まつたものを順次店頭に出していくので、店内は常にアップデートしている感じだ。また、入荷状況によって、コーナーづくりも、ディスプレイもどんどん変化。お店に行くたびに新しい古いモノが待っていることが、常連客のハートをつかんでいるのかもしれない。

これまで多種多様な古いモノたちの入荷方法は、持ち込みによる店頭買取、出張買取の他、家屋の解体現場を業者から紹介してもらい自分たちで探すことも多い。「時代に合って売れる」と判断したものは基本的に貰い取りります。いい

モノ、かわいいモノ、かっこいいモノは、一度見させてください。何でも査定いたします」と林さん。

自宅に不要になった古いモノはないだろか。まだ使えるけれどもう使わないもの、放置したまま錫びてしまつたものの処分しようと思っているもの等々。それらを必要としている人、ほしいと思ってるのは想像以上に存在しているのだ。今所有しているものを可能な限りリユースする、また廃棄するのではなくリユース業者に委ねることは、もののライフサイクルを伸ばし、更にゴミの削減、資源消費の削減、そして環境保全につながっていく。SDGsに貢献する取り組みにもなる。

蟹江にオープンしてちょうど20年たったリサイクルくる。林さんは同店に来て9年目だが、品揃えも店内の様子も随分と変わったという。「昭和レトロやアンティークなど、古いモノが好きという方に喜んでいただけるお店になっていると思います。来たことがある方もない方も、いつでも気軽に立ち寄ってください」。

蟹江にオーブンしてちょうど20年たったリサイクルくる。林さんは同店に来て9年目だが、品揃えも店内の様子も随分と変わったという。「昭和レトロやアンティークなど、古いモノが好きという方に喜んでいただけるお店になっていると思います。来たことがある方もない方も、いつでも気軽に立ち寄ってください」。

リサイクルくるの魅力も充分感じられる。蟹江工房として参加し、持ち帰りできるモノたちを登場させる予定だと。リサイクルくるのマーケットイベントも楽しそうなこちらのマーケットイベントも楽しそうなものが多いビッグな、ホツとするおかね」